

は祭政一致にして、政體より見れば神權的、家父權的、立憲的を兼ね、一の「パードックス」に似て而も事實なる所以を論じ、又皇室祖先の祭祀は國民的祭祀なる事を述べ、我國の憲法、皇室に關する規定、古代「氏」に關する規定、近世の「家」に關する民法を始めてめとして婚姻法、養子法、養子離縁法及び相続法等、我國に於ては悉く祖先祭祀を其根本義としたる所以を論ぜり。附録一、養子正否論には古來學者の之に關する議論を擧げ、概ね儒學側は異姓養子を非とし、國學者側は之を是認せる事を叙し、第二、由井正雪事件は徳川幕府の養子法に於ては徳川幕府が政策として養子法を嚴酷にし、諸侯特に外様大名の斷絶を謀りたるに、其結果として浪人を輩出し遂に天草事件に次いで由井正雪事件を誘致せるに驚きて其政策を一變したる事を述べたり。〔清原貞雄〕

●極東の民族

中村久四郎著

本書は徳富猪一郎氏鑑修法學博士吉野作造氏編輯の下に成る現代叢書第二期の最終卷として刊行せられ、極東諸民族の歴史、本體性情、現狀を解説したるものなるが、主として漢、滿、蒙、回藏の五民族に就て説けり、其の主なる表目を摘出せば、第一章序論にては極東民族問題、極東の字義及び範圍第二章漢民族にては漢族西來の説、上古漢民族の對抗民族、三代秦漢乃至明清各時

代の漢民族、漢人民族性、西洋人の漢人觀察第三章にては滿蒙回藏の四民族の消長盛衰等あり。各章何れも著者が専門の學術的見地より穩健なる學說を採用し平易簡潔に記せるものなれば極東の天地が今や政治、經濟、學術、乃至軍事上に於て東西諸國より注目環視せられつゝある折柄、讀者を裨益する少からざるべし、卷末に人名地名索引、事項索引を附せるは用意周到なり（民友社價一、二〇）

●第貳回支那年鑑

東亞同文會發行

支那各般の事項が數字的説明に於て缺如したる所多きは支那史研究者の最も遺憾とする所、従つて支那に於て統計的材料を得むとするには思はざる苦心を要するは云ふ迄も無し。東亞同文會茲に見る所あり、明治四十五年より年鑑の編纂に着手し、今回其第貳回のもつてを出すに至れり。一千餘頁に互る大冊にして面積、人口、政體、政治、財政、公債、外交、陸軍、海軍、農業、工業、商會、會社、鐵道、水運、郵便、電信、銀行、保險、外國貿易、人名錄、新聞の二十二項に分類し、各項簡潔なる記述は苦心收得せし統計表と相俟ちて支那研究者を裨益する所甚大なるを信ず（同會、價五、〇〇）

●印度佛教史

馬田行啓著

本書は著者の所謂東洋的精神文明の精華たる印度佛教に就て従来の研究が動もすれば西洋人の小乗佛教研究に傾き、日本人の大乗佛教研究に走らむとする風あるを以て著者は其兩傾向を參酌して茲に印度佛教の全般に涉り精粗宜しきを得しめむとて試みしもの、主として一般世人に講讀を勧むる爲め簡明平易を旨としたりと雖も亦研究者に對して資料及び研究問題を提供せるものあり緒論には佛教研究の方法、印度佛教史の區分、漢文、梵文、英文、邦文の一般參考書をあげ、本論は凡そ十八章、阿育王朝の佛教以下迦膩色迦王朝、龍樹提婆時代、笈多王朝、陳那乃至戒賢時代、戒日王朝等の各代に於ける佛教を概説し、學説の取捨宜しきを得たり(早稻田大學出版部、價一、六〇)

●能海覺遺稿

能海覺追憶會發行

著者は石見國眞宗大谷派淨蓮寺に生れ、夙に西藏探險の志あり明治三十八年七月入藏の目的を遂げし途に横死せりと傳へらるゝ人なり。此の遺稿は南條文雄、寺本龍雅、太田保一郎諸氏の手によりて編纂せられ同氏遺稿中主として入藏旅行發程以後の撰述紀行を收録せり。其の主なるものを見むに、般若心經西藏文直譯に關資三藏般若共利音譯の般若波羅密多心經に符合せしめつつ梵文は英國出版の「大心經第一「七一」を採用し、之に日本文を加へたる「心經藏梵日漢四體合璧」は氏が苦心の迹を讀むべく、南條博士

の編纂せる『來信集』は明治卅一年十一月十八日上海發以來卅二年四月廿一日大理府劉川州發に至る四十三信を錄して、氏が壯圖を變歸たらしめ「進藏行程」は氏が入藏の目的を以て三十一年神戸出帆以來の紀行として、漢口武昌より重慶を過ぎて成都に入り、藏漢接境の打箭爐を過ぎて、裏塘に出で巴塘に達して入藏を拒絕せられ、引き返して成都より西安府に入り、蘭洲を経て青海に出て更に事故により重慶に引き返し、轉じて貴州黔南に入り、其後は大理府以西の驛地にて生死不明となりし迄の紀行、並に日程表あり、『遺品目錄』哀悼追憶皆壯士の行迹を語る、卷頭の肖像、筆蹟、西藏經典寫真、旅程地圖等皆一讀追憶の情に堪へざらむ(能海覺追憶會、價未詳)

●文部省檢定、實驗、用東洋通史

高橋與惣著

現今本邦に於ては、特殊研究に没頭せる少數なる専門家の知識と大多數の國民の東洋史に關する知識との懸隔は蓋し甚大なり。本書は此の缺陷を補ひ、一般讀書家に恰好の伴侶となり、又中等學校に於ける東洋歴史科の教授參考書となり、兼て各種程度に於ける受験の準備の資とならんが爲め編纂せるものにして、各編東洋史の根幹をなせる事實を精細に通説し、古今東西、専門家の發表せし學説の比較的穩健なるものを採録し、一々出所を明かにしたる一大東洋通史なり。特に各時代の終末に其の期間全般に渉れる

約説を叙述して概念を構成せるは頗る有益なり、卷末の文部省中等教員檢定試験東洋史料問題を一括せるも受験者に便利なるべく中等學校の東洋史參考書の白眉たるべし(大同館、價二、六〇)

● Returns of Trade and Trade Reports (1913)

(中華民國二年通商各關華洋貿易全年清冊)

Order of the Inspector of General of Customs (上海通商海關總署發行)

本書は西曆千九百十三年即ち中華民國二年に於ける支那北部貿易港即ち琿春關、延吉關、奉天關、大連關、山海關、秦皇島關、津海關、東海關、膠海關等の統計報告を基礎として、此等各關海口に於ける該年中の貿易の概況を統計的に記述せるもの、載する所(一)貿易は専ら水陸兩路の外洋各國通商口岸より上述の港を経由したる輸出入に就て(二)貿易は水陸兩路を経由せし物貨にして叙上の開港場にて賣却せられし情形に就て、其他(三)通商海關各口相互貿易、(四)内地貿易等一々精細なる統計を示し、漢英兩文を併せ記し混用して詳細を極む。(上海通商海關總署、價二元)〔以上那波〕

● 中國歷代帝后像 一冊

本書はコロタイプ大形板百十七枚より成り、伏羲、堯、禹以下明の熹宗に至る迄百餘人の帝后を一枚一人宛寫出し、大抵原圖の寸法と

第二卷 紹介 圖 書

人物の略傳(英字にて別に人名時代等をも示せり)とを一々別紙に記載して相對照せしめたり。その編者及び撮影の次第は知るに由なしと雖、歷朝宮廷内に秘藏せられたる帝后像に據りしこと疑なし。それは本書と清の道光二十三年(西曆一八四三年)翰林院編修胡敬撰、南薰殿圖像收二卷とを比較するに、同書上卷の冒頭に伏羲像は「絹本縱七尺八寸横三尺四寸七分(本書は七分を略す)設色坐像高四尺三寸、散髮披鹿足下右圖龜左圖八卦」といふ説明を附し圖幅の上方楷書の贊に「朕獲承祖宗右文之緒、祇遵燕謀、日奉慈極、萬幾餘聞、博求載籍、推述道統之傳、自伏羲迄於孟子、凡達而在上其道行、窮而在下其教明、採其大指、各爲之讀、雖未能探顯精微、姑以寓尊其所聞之意云爾」及「堯、繼天立極、爲百王先、法度肇建、道德純全、八卦成文、三墳不傳、無言而化、至治自然」さへるもの、皆本書第一頁の説明及び圖板と一致し、次なる帝堯像の寸法、服裝、贊辭、第三夏禹像、第四商湯像、第五周武像も亦皆斯くの如く本書と圖像收と相符合せり。故に本圖板と圖像收の記事とは同一の原圖に基きしこと明なり。而して圖像收には宋史理宗本紀、玉海等を援きて、以上五幅の考證をなし、各圖の贊は南宋の理宗が淳祐元年(西曆一二四一年)正月戊申太學に幸せし時、伏羲堯舜禹湯文武周公孔子顔子曾子子思孟子等の道統十三贊を製して國子監に賜ひ諸生に宣示したるを分書せるものに

第三號 一四九 (五二〇)